

平成26年度定時総会会長挨拶

平成26年5月28日

浅沼前会長の後を受けて、全建会長に就任致しました近藤でございます。一言ご挨拶を申し上げます。

さて、建設業界の現状をみますと、発生から3年を経過した東日本大震災の被災地の復興の加速、老朽化したインフラの再整備、さらには2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた各種施設の整備など、建設需要は更に増加する傾向にあります。加えて、安倍政権下において『国土強靱化』の推進により、建設業の重要性が再認識され、果たさなければいけない役割もますます増えているところでございます。しかしながら、一方では若年入職者の減少や技能労働者の高齢化により、深刻な人手不足となっているのが現状であり、加えて労務費や資機材価格の高騰など、建設業を取り巻く環境は、依然厳しいものがございます。

国会では、インフラの品質確保と建設業界の将来の担い手確保を目的とした「公共工事品質法の一部を改正する法律案」が審議中であり、近日中に成立の運びとなっております。ご尽力いただきました国会の先生方をはじめ、関係の皆様には、心から御礼を申し上げます。また、設計労務単価の引き上げや、低入札価格調査基準の見直しも実施していただきました。我々業界を挙げて「夢のある建設業の再生」に取り組んでまいります。

このような環境の中、全建会長の大役をお引き受けする事となりました。浅沼前会長におかれましては、3期6年の長きにわたり、我々建設業界の発展・再生の為に、常に先頭に立って大変な御尽力を賜りましたことに対しまして、心より感謝と敬意を表したいと存じます。全建会長として、蔦田・岩田・北川・檜山の4名の副会長と共に、微力ながら建設業界の再生と活性化の為に、精一杯努力してまいり所存でございます。

どうぞ今後ともより一層のお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げ、私の挨拶といたします。ありがとうございました。